

★すべてアンケートの表記のままです。

令和5年度 事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 1月

事業所名 児童発達支援センターすくすくのびのび園

		チェック項目	はい	いいえ	わからない	その他	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	37	4	0	・一部の部屋は十分確保しているとはいえない。 ・検査や面談で使用する個別室の数が少ない	
	2	職員の配置数は適切である	34	2	5	・業務の質や量を考慮すると、適切ではないと思う。 ・適切な配置がされている所とそうでない所がある	・現状に則した職員配置になっているか、業務分担を決める際に合わせて検討します。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	31	10	1	・建物が子供用にできていないので、階段の段差が子どもが使うには不適切な高さである。 ・古い建物のためバリアフリー化が進んでいない箇所がある。また掲示物が多いスペースもある。 ・元々は大人向けに建てられた施設なのでバリアフリー化に至らない部分(階段など)も少し残っているが、おおむね配慮がなされている	・建物の構造自体は簡単には変えられないので、着手できることから工夫していきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	38	2	2	・クラス職員の意識による。 ・冬場は足元が冷たく、心地よい環境とは言い難い。	・物理的な環境整備も療育の一環と捉えて取り組むようにします。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	32	5	5	・職員間で差があるように思う。	・ねらいを共有して業務に取り組み、結果どうなったかまできちんと確認しあえるようにします。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	38	1	4	・保護者評価を振り返って改善につなげる場がない。評価を集めただけで終わっている。	・保護者評価の結果を会議等で共有し、改善点を明確にするようにします。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	39	2	2		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	38	4	0	・第三者評価を実施しているが、十分な業務改善にはつなげられていない。	・保護者評価の結果同様、まずは改善点の明確化に努めます。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	39	3	0	・勤務内の研修の機会は設けられているが、時間外の自主的な研修は自費で受けていることも多い。 ・職員の専門性を深め組織全体で支援の質を高めるために、今以上に頻度を高めたい。	・研修の機会が偏らないよう、計画的に実施できるようにします。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	38	0	5		
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	29	2	11	・発達検査は標準化されたものを利用しているが、子どもの日常的な行動をアセスメントするための「標準化された共通ツール」となると、無いように思う。	・園として導入できるツールがあるか、等検討していきます。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	31	2	10		・必要に応じてガイドラインの内容を確認できるような環境を整えます。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	37	0	6		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	41	0	2		
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	38	1	4		
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	40	0	3		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	42	0	1		
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	41	1	1		
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	40	0	3		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	37	0	6		・年に2回の個別支援計画の見直しにそれにあたることを職員間で周知します。

	チェック項目	はい	いいえ	わからない	その他	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	40	2	1	・セルフプランの方が多くを占め、サービス担当者会議に参加する機会がほとんどない。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	43	0	1		※重複回答者1名あり
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	37	0	7		・ハイリスク児にとっての関係機関や地域での連携の重要性をより認識していけるようにします。 ※重複回答者1名あり
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	34	2	8		※重複回答者1名あり
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	42	0	2		※重複回答者1名あり
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	37	1	6		・就学支援シートの作成や、特別支援学校との引継ぎなどがそれにあたることを職員間で周知します。 ※重複回答者1名あり
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	26	2	15		・他機関との連携により積極的に臨めるようにします。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	10	19	14		・特に母集団のないお子さんの保護者に対して、交流の場等を紹介できるよう情報収集します。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	35	2	6	・参加者が特定の職員だけで全体へのフィードバックがあまりない。	・より瀬局的にフィードバックしていくようにします。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	41	0	2		
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	41	0	2		
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	39	1	3		
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	40	0	3		
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	42	0	1		
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	38	0	5		・保護者同士の連携を深めることの重要性を職員間で周知します。
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	40	0	2	・相談の経過や結果の報告が周知されないことがある。	・周知の漏れが無いよう努めると共に、個々の職員も積極的に情報収集をしていくようにする。 ※未回答者1名あり
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	38	1	4		
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	41	1	1	・職員の意識による。特にパソコン関係は意識が薄い。	個人情報の適切な取扱いについては、個人情報保護に関する研修の受講を全職員に義務付け、周知・啓発を図っておりますが、より一層の注意を払うよう、職員のさらなる意識向上に努めてまいります。
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	43	0	0		
非常時等の対応	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	17	13	12	・施設の特性上自分達から積極的に公開しては行っていないが、見学などの申し入れがあった場合は対応している。	・見学者の受け入れの他、「発達応援マルシェ」など区民に開かれた場での施設PRに努めます。 ※未回答者1名あり
	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	41	1	0	・防犯に特化した訓練を行っていない。 ・マニュアルを知る機会がない。 ・防犯マニュアルは見たことがない。	・マニュアルの整備・周知に努めます。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	42	0	1		
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	42	0	1		
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	41	0	2		
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	43	0	0		
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	41	0	2		・虐待防止委員会の実施のみならず、その内容を職員に周知します。
47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	27	15	1	・緊急やむを得ない場合以外身体拘束を行わない、と説明しているが、その事態がいつ起こるかについての保護者への説明や同意に関して、組織的には決定していない。個々のケースについては保護者と相談していると思われる。	・想定しうる事態への対処方法に関し、まずは職員間で共通認識を持ち、適正化への取組につなげていきます。	